

(1)事業の概要等

令和6年度 事務事業評価シート

事業番号		B1204-1		事務事業名		こまきこども未来館運営事業			事業期間		平成2年度		～		令和8年度以降				
実施計画事業		○																	
実施計画事業以外の事業				担当部		こども未来部			担当課・担当係		多世代交流プラザ・事業推進係								
事業の概要	小牧市まちづくり推進計画(R5年～R8年)	分野別計画編		基本 施策	12	展開 方向	4	事業・予算区分	一般事業	款	3	項	3	目	5	大	4	中	1
	根拠法令 ・個別計画								対象 (何・誰を対象に)		こども達								
	目的 (何のために)		安全・安心な子どもたちの居場所であり、これからの未来を力強く生き抜く力を育てる豊かな「学び」を提供する。						内容 (どのような方法で)		5つのエリア(遊びひろば・体験ひろば・ニコニコひろば・交流ひろば・児遊ひろば)において、体を使ったり、親子や友達同士でゆっくり過ごしたり、ワークショップをとおり様々な体験をできるようにするとともに、様々な年代の交流が図れるようにし、「こどもの居場所」を創出する。 また、子育て中の保護者に寄り添う場となるよう関係性を深めていく。								

(2)事業費

事業費	項目	単位等	R2	R3	R4	R5	R6	
			直接経費	決算額	千円	15,310	72,285	78,550
	財源	一般財源 国・県支出金 その他						
			計(A)	千円	0	0	0	0
			対前年比	%	40,001	32,912	42,221	60,717
			55,311	105,197	120,771	119,562		
			—	190.19%	114.80%	99.00%		
	予算額	千円	73,500	127,367	148,737	143,659	135,721	
人件費	正規職員	人	0.1	1	1	1		
	正規職員(平均賃金)	千円	749	7,486	7,486	7,486		
	その他職員	人	30	30	24	24		
	その他職員(時給×時間)	千円	22,918	51,137	48,025	49,104		
	計(B)	千円	23,667	58,623	55,511	56,590		
事業費合計(C=A+B)		千円	78,978	163,820	176,282	176,152		

(3)業績

展開方向における指標の推移	基本施策	12	指標名		単位	方向性	基準値	R5	R6	R7	R8
			1	児童館利用者数				人	↗	#####	620,416
展開方向	4	2	中高生利用者数	人	↗	37,055	50,771				
		3									

指標	指標ほか		単位		R2	R3	R4	R5	R6	
	成果指標	児童館が楽しいと答えた児童の割合	%	目標						
				実績	—	87.5	99.1	95.0		
	活動指標	こども未来館利用者数	人	目標						
				実績	300,000	300,000	300,000	300,000		
				目標	14,301	169,587	267,039	313,085		
				実績						
	単 事 業 あ た り	受益者数(a)		人	14,301	169,587	267,039	313,085		
		受益者あたり事業費(=C/a)		円	5,522	965	660	562		

(4-1)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維持(改善)	事業のボリュームは現状規模で維持するものの、手法の改善をするもの				
	事業の達成状況と課題	<p>各エリアに児童厚生員を配置しこどもとの関わりを持つとともに、ワークショップや交流・体験CAMPなどの取組を行うことで、活動指標の目標を達成できた。</p> <p>一方で、児童館は18歳までの児童が利用できる施設であるが、中高生の利用が少ないため、利用を促進する必要がある。</p> <p>また、来館者の増加にあわせ、児童と関わりをもてよう体制の見直しが必要である。</p> <p>中高生の利用状況 R2年度:8.8% R3年度:12.5% R4年度:9.1% R5年度:11.2%</p>	今後の実施内容・今後の改善内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、家庭や学校では体験できない様々な遊びや体験を通して、子ども自身の学びに繋げる。</li> <li>中高生利用促進に向けた取組み(中高生の意見を聞きながら、講座等を開催する)に力を入れていく。</li> <li>子どもたちの意見を取り入れ、「こどもの居場所づくり」を行う。</li> <li>児童厚生員、見守り職員の適正配置に向けた検討を行う。</li> </ul>			
	改善の有無	有		千円	節	細節	細々節
これまでの改善内容	窓口業務と講座開催業務を一つの委託とすることで、業務の効率化を図った。	事務事業評価額					

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

事業分析		評価項目	評価結果	評価結果を判断した理由
妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	妥当である	こまきこども未来館は市の中央児童館となっている。児童館は、18歳未満のすべての子どもを対象とし、地域における遊び及び生活の援助と子育て支援を行い、子どもの心身を育成し情操を豊かにすることを目的としている。このため、児童館については、公費を投入する必要がある。	
有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	一部の住民に影響がある	児童館は児童にとって、学校や家庭以外での大切な居場所であり、子育ての悩みなどに寄り添うとなっており、大きな影響がある。	
効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	削減の余地がある	児童厚生員等の適正な配置に向け、職員配置の見直しを行う	
	外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	外部委託や統合により削減の余地がある	こまきこども未来館については、今年度より受付業務及び講座開催業務を合わせた業務委託とし、職員の流動的な配置を可能としたことで、事業費の削減をおこなった。今後は、委託する業務内容の拡大等による経費削減の余地について検討をする。	
公平性	受益者負担は適正か	適正である	こどもの健全育成において大変重要な役割を担うものであり、多くの児童の安心・安全な居場所として管理・運営を行っており、適正である。なお、市内の児童が土日等混雑期に利用が抑制されることが無いよう、また、受益負担の公平化の観点から休日等(長期休暇含む)においては、市外有料としている。	